待っていた手紙

快流緋水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
待っていた手紙

【Ｎコード】
Ｎ２２９３Ｏ

【作者名】
快流緋水

【あらすじ】
５年前からの約束。２０歳になった今，それをあけたら，あたたかな気持ちでいっぱいであった。

川原にたった5本だけ列になって生えている松の木。
そこの真ん中の木の根元に埋めた。
未来の自分への手紙を。
『5年後の11月1日のときにな！』
それは2人が20歳になる日。

手帳の日付に丸をつけた日がやってきた。初秋の寒い風の吹く中，自転車を走らせて川原に行くと，すでに彼女は来ていた。寒そうに手をこすり合わせ，オレを見ていた。
『大地！久しぶり～～！！！！』
風を切って走っているオレの耳にも大声と分かるくらい，周りの人がびっくりして振り向くくらいの大声で言われた。恥ずかしいよりも，そんな大声を出せる彼女に驚いた。
『悪い，空。待たせた。』
そう言って自転車から降り，マフラーをかけてやる。すると，彼女は驚いてきょとんとした目で見てきた。
『なんだよ？』
『意外～。そんな紳士的なことやるんだ～。』
きゃはきゃはと明るく笑う姿を見て，今度こそ照れた。
『だってお前寒そうじゃん。それに，冷やすと良くないんだろ？』
彼女は小さくエへへと笑った。
『ありがと～。』
『どーいたしまして。じゃ，掘るか。』
『うん！』
大地が持ってきたスコップで松の木の根元を掘り起こす。5年前に埋めた手紙を手にするために。

未来の自分への手紙を入れた大きな缶が出て来た。染み込んでいった水で多少さびてはいるが形はそのままで，中にも支障はないだろう。

2人の手でそっと取り出し，ひと息をつく。

『軍手してても，手が真っ黒。』

『洗えばいいんだよ。』

『そ～だけど，早く見たいんだもん。』

5年前に書いた手紙。この日を待ちわびていたのだ。

『大地がタイムカプセルやろうって言うから，頑張ってこれたんだよ。』

『そーかそーか。偉いな。』

『ちょっと！その手で撫でようとしないでよ～。』

大地は慌てて手を引っ込める。さすがにこの黒い手では彼女の頭を撫でるのは失礼だ。

『早く洗いに行くか。』

『うん。』

未開封のまま缶を自転車のかごに載せ，その横にスコップも載せる。

『後ろ乗るか？』

『ううん，歩くよ。もう大丈夫だから。』

大地は自転車を押し，空が並んで歩く。こうやって並んで歩くのも5年ぶり。こうできることが幸せだった。

近くの公園の水道で手を洗い，ひなたのベンチに並んで座る。ちょっと冷たい木のベンチに缶を置き，そっと開けると中にはきちんと手紙が入っていた。まず大地が取り出し，それから空が2通取り出した。

『いつの間に2つ入れていたんだよ？』

『秘密～。じゃ，コレは大地にね！』

2通のうち1通を大地に差し出した。あて先は確かに大地となっている。

『なんで？』

『空ちゃんからのプレゼントだよ。』
にっこり笑うと，大地は驚きつつも手にした。
『5年前に考えてたのかよ？』
『うん。』
大地は未来の自分への手紙よりも先に開けて読み始めた。
未来の自分への手紙を提案したのは大地。それには訳があった。
5年前。15歳になる手前，空は癌に侵された。早期発見ではなかった。若いだけに病魔がすくう速度は速く，検査を重ねて手術に踏み切ったのである。癌が一ヶ所であればまだ良かったのだが，転移していたせいで手術は長引いた。胃と肺のその部分だけ切除し，そこからリハビリをしてきたので復活には時間がかかった。
また，地元の病院では手に負えず，都心部まで出て入院・通院をしてきたので，2人は離れ離れだったのだ。

大地へ
癌になって怖い。ものすごく怖い。
いくら生存率が高くなってきたって言われても，怖い。
末期癌じゃなくても，治る見込みは十分あるって言われても。
どんなに言われても，今ここで死にたいくらい。
だけど，大地が未来への手紙を書こうって言ってくれたから。
5年後の自分へ。そんな先を生きているなんて，考えられなかったもの。
大地が生きよう！っていう気持ちをくれたから，頑張るよ。
本当にありがとう。
大地がいなかったら，私死んでた。だから大地には感謝でいっぱい。
ありがとう。

大地はじんわりと温かな気持ちがしてきた。１４歳の自分が空に勇気をあげていたとは思ってもみなかった。
空は大地の袖をきゅっと掴んだ。
『ありがとう，大地。』
感謝の言葉とともに，頬に口付けをおくった。大地はくしゅっと照れ笑いし，お返しと言わんばかりに同じことをしてやった。
『やられたよ。』
そう言って，大地は封筒を破ってその中の１枚を差し出してきた。
『なぁに？』
『オレからも。』
今度は空が驚く番であった。

空へ
生きるっていいもんだろ。
一緒に生まれたんだから…死ぬのも一緒だといいな！
だから，まだまだ生きるぞ！

下手くそな。でも，強い力の入った字に空は涙がこぼれてきた。
それを見て，大地はそっとハンカチを渡す。
『ちょっと濡れてるけど，かんべんな。』
『大地，ありがとう。』
『どーいたしまして。』
さっき手を拭いたから少し湿っているけれど，心は温かくなった。
２０年前，一緒に生まれた。どっちが先に生まれたかなんてどうでもよくて。ただ，双子として一緒に生きてきた。
死ぬときまで一緒とは限らないけれど，このつながりが心強いの

だ。
『じゃ，家に帰るか。久々の実家だろ。』
家出した双子に話しかけるような口調で，思わず空は笑い出した。
『そーだね。』
２人は手をつなぎ，一緒に育った家へ歩き出した。
松の下で待っていた手紙とともに。

（後書き）

２００９年。ある手帖の背景を使って，ひと月に１つ書き上げていきました。これは，１月のもの。『松』です。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2293o/

待っていた手紙

2010年10月10日13時57分発行